2023 年 3 月 31 日

公益財団法人日本城郭協会　２０２２年度事業報告書

1.「会員増強計画」―会員増強への取り組み強化・推進―

協会の事業や活動を支える会員の増強は協会運営の最重要活動として、2021 年度の各種会員数の 15%増員を目標に会員増強に取り組んだが、68 名(7%)の会員増加に対し退会者も 31 名と多く差引 37 名増(4%増)にとどまった。最終的に年度末現在、一般会員 869 名・法人会員 11 社・城郭会員 29 団体の合計 909 名・団体となっている。

会員満足度の向上を目的に、一般会員向けに水戸城・飯盛城・箕輪城にて会員交流会を企画・開催した。また、親子名城見学会にても会員向けに先行受付を行い、小田原城・駿府城・福山城・菅谷館にて 71 名の会員参加となった。法人会員・城郭会員向けには会報への広告枠の提供や、協会 HP からのリンクの提供、お城 EXPO における割引出展料設定、協会ブースにおける PR 機会の提供や、会員交流会・親子名城見学会にて優先的に訪問するなどの連携強化につとめた。

尚、会費増収は目標未達となったが、各種監修費やお城 EXPO の収益分配金等で、協会運営資金は確保することができた。

２.「日本城郭協会大賞」の選定・表彰

城郭文化のさらなる振興のための新たな事業として創設した、『第 1 回日本城郭協会大賞』を 2022 年 4 月 6 日に発表した。城郭協会大賞は「大東市・四條畷市(飯盛城跡の発掘、調査)」城郭文化振興賞は「番場の歴史を知り明日を考える会(鎌刃城跡の啓発・普及・保存活動)」城郭文化特別賞は「春風亭昇太師匠」に決定、6 月１６日日本城郭協会総会の席で表彰した。受賞者は年末の「お城 EXPO2022」にて記念講演を行った。第 2 回の選考作業は年末から実施、2023 年 3 月１４日の最終審査委員会で日本城郭協会大賞に静岡県の「久野城址保存会」、城郭文化振興賞に岐阜県の「可児市山城連絡協議会」を選んだ。

３.「日本 100 名城スタンプラリー・続日本 100 名城スタンプラリー」の運営及び PR 強化

「日本 100 名城スタンプラリー・続日本 100 名城スタンプラリー」は、新型コロナウイルス感染症による各自治体の自粛明けに伴い、各城郭と緊密に連携しながら推進した。

また、ガイドブックの出版を行う㈱ワンパブリッシングと連携してスタンプラリーサイトを制作し、「お城 EXPO」や「ドラクエウォーク」など企業とのコラボや催事・SNS などを通じて「日本 100 名城・続日本 100 名城スタンプラリー」のＰＲを実施し、スタンプラリー参加者のさらなる増加を図った。

尚、100 名城スタンプラリー達成者は期中にのべ 5,000 人を突破した。2022 年度末現在の達成者は 100 名城 5,068 名、続 100 名城 1,207 名である。

４.「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」の継続開催

「城の自由研究コンテスト」は 2021 年に引き続き、小学生の部と中学生の部に分けて作品を募集した。2022 年度は 229 作品の応募があり、それぞれ 10 作品の優秀作を表彰した。表彰式については社会的認知度のさらなる向上を図る目的で、「お城 EXPO2022」のステージを使用して公開開催を行った。

「親子名城見学会」は、小田原城・駿府城・福山城・菅谷館で合計 71 名の参加を集め、3 年ぶりに開催した。

5.「お城 EXPO2022」の開催

2022 年度も、当協会として引き続き主催実行委員会に主導的立場で参加した。参加城郭ブース数は 100 を超え、前夜祭を含めて 3 日間合計 15,487 人の来場者を迎え盛況裏に終了した。

当協会として協会ブースを出展し、協会の活動案内と会員募集を行った。また、協会主催のセミナーを開講し、新任学術委員の講演や日本城郭協会大賞受賞記念講演を行った。併せて EXPO 内で城の自由研究コンテスト優秀作品展の出展と表彰式を開催した。

また、愛知県・滋賀県など各地で開催される「出張!お城 EXPO」にも積極的に参画し、地方に城郭文化の伝播を行うと同時に地方の城郭愛好家への当協会の PR と入会促進を行った。

6.「日本城郭検定」の開催

2022 年度の日本城郭検定は、新型コロナウイルスの流行に留意しながら、年 2 回開催を行った。第 20 回となる 6 月の検定では、記念回としての企画を実施した。また、11 月の第 21 回では会場検定と併せてオンライン検定も本格的に実施した。2022 年度の受験者数は合計 2447 人だった。

「お城 EXPO」で開催している「日本城郭検定プレゼンツ・城好き No1 決定戦」は、「日本城郭検定」の PR という位置づけで引き続き開催した。

7.「日本城郭協会史」の刊行

当協会の公益財団法人移行 10 周年を記念して、当協会の創立から今日までの活動を記録した「日本城郭協会史」を編集・刊行し、全国の県立図書館を始め関係各所に寄贈した。

8.[会報・HP]等広報活動強化

当協会の公益事業活動を広く社会に周知させるとともに、会員への情報サービス機能や新会員加入促進を目的に、会報「城郭ニュース」の発行・配布を継続実施した。

ホームページ・SNS についても、会員・その他の城郭愛好家向けに、各城郭からの提供された情報などを適時掲載・リツイートを行った。

協会公認サイト「城びと」との連携や、「日本 100 名城城カード」の企画・発行に伴う監修、各自治体等からの講師派遣対応など城ブームの興隆に寄与した。

9.「ヨーロッパ 100 名城」の PR・事業化推進

2011 年に選定した「ヨーロッパ 100 名城」について、今年度よりガイドブックの更新と事業化を目標にコンテンツの見直し作業に着手した。初年度はウエールズ政府日本事務所の協力を得、ウエールズにある城郭のパネルを制作し、お城 EXPO で展示を行った。

10.「学術委員会の活動強化及び学術委員」の拡充

学術委員会の活動については、マスコミ等からの問い合わせ対応を行う事務局からの相談対応や会報への寄稿、「お城 EXPO」の講演、「日本城郭協会大賞」の審査員など協会が主催・参画する催事への参加などを行った。また、新任学術委員として 2 名を招聘した。

11.「当協会資産」の整理・活用

当協会の資産である井上宗和氏の研究資料等の整理を継続した。